



〈東区〉2014.10

しのだ江里子市政だより

札幌市議会
民主党・市民連合

〒060-0001
札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所17F
TEL(011)211-3212 FAX(011)218-5121

No.23



ゆるぎない想いさえあいの東区

いよいよ秋も深まり、地域にある神社の例大祭も終わり、すっかり静かになった今日この頃ですが、皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

7月から9月28日まで2か月のロングランで初めて開催された「札幌国際芸術祭2014」は「都市と自然」をテーマに現代アートを私達に身近なものとしてくれました。

北海道近代美術館や札幌芸術の森会場はもちろんのこと、モエレ沼公園やチカホ（駅前通地下歩行空間）、資料館西の「コロガル広場」では、子どもから大人まで多くの市民や観光客が楽しみ、予想を大きく超える45万人の来場者がありました。課題もありましたが、今後検証をして3年後に続けていきたいものです。

9月22日から11月6日までの46日間、第3回定例会、決算特別委員会が開催されており、8,500億円を超える2013年度決算と2014年度補正予算の審議を進めております。

札幌市は昨年10月「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定し、未来をつなぐ子ども達のために目指すべき都市像「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を掲げ、この実現に向け新たな都市経営戦略を示しました。

しかし「日本創生会議」において、2040年までに消滅する可能性のある自治体が道内8割近くを占めるとの報告もあり、危機意識を持ちながらまちづくりは進めていかなければなりません。

二期目の最終年、市民の代表であり、代弁者として、なお一層精進してまいります。

皆様の声をお聞かせいただければ、幸いです。

<2014年9月11日豪雨について>

9月11日未明からの豪雨は、南区滝野地区では1時間で最大71.00mmとかつてない雨量を観測し、札幌では初めて39万世帯78万人に土砂災害避難勧告、洪水避難勧告が発令されることになり、南区・清田区・厚別区を中心として市民は不安な一日を過ごしました。

被害状況では床上浸水7件、河川氾濫等40か所、道路冠水98か所など184件の物的被害となりましたが、人的被害はなく、開設避難場所は156か所、最大避難

者数は479名を数えましたが、ほぼ12日中に収束いたしました。

広島市や礼文町での災害を契機に9月1日から新しい防災対策のもと、雨の降り方、気象情報を総合的に判断し早い段階で対処の避難勧告でしたが、まず、自分の身の置かれている場所の環境に対する正確な情報を身近でキャッチしていただき、日頃から災害に備えてまいりましょう。今回の経験をさらに分析して、よりよい避難に向けてマニュアル化していきます。

第3定例議会 代表質問ダイジェスト

1・市長の政治姿勢について

上田市長は、「札幌あたりまえ宣言」を公約に謳い、参加と対話を基本とする「市民自治が息づくまちづくり」「市民のために！挑戦する市役所」を政策に掲げ、市民目線で市役所改革に取り組み、「市民自治」を市政運営の根幹に据え、創造性に富む市民の力をもとに、時代の転換期を見据えた新たなまちづくりに取り組んでこられた。

質問：この12年間の市政運営をどのように評価しているのか？

冬季オリンピック・パラリンピックについて開催費用や効果等に関する調査結果を発表した。年内に行う招致の判断に向けて今後市民論議を深めることになるが、これは札幌の未来を創造する取組の具体化と言える。オリンピックを開催することは、子ども達に夢と希望を与えるほか、スポーツの振興を通じて平和でより良い世界の実現に貢献し、これを契機に人口減少、超高齢社会を見据え、札幌のまちづくりを加速させる視点も重要と考える。

質問：オリンピックを活用したまちづくりをどのように考えるのか？

答弁：人を大事にすることを原点に据え、市民自治が息づくまちづくりを実践し、将来の世代に過度な負担を残さぬよう、市債残高の縮減や職員数の見直しを行った。今後も、この札幌に根付く市民自治の力でどんな難局も乗り切ってゆける。オリンピック・パラリンピックの招致を、新たなまちづくりの起点とし、公共施設、民間開発により都市のリニューアルを加速させ、市民の誇り・愛着の醸成をはかり、札幌の未来の創造につなげていきたい。



(芸術祭会場 モエレ沼公園 ピラミッド)



(芸術祭会場 札幌市資料館)

2・市有建築物の配置等に関する基本方針

札幌市全体の公共施設の効果的・効率的な配置や総量のあり方について、基本的な方向性や考え方を策定するとしている。従来の発想を転換し、公共施設全体を再構築することを挙げており、視点には「市民が創る公共施設」「コミュニティを深化させる公共施設」「柔軟でスマートな公共施設」を挙げている。

質問：30年後の札幌の未来を見すえた「公共施設の再構築」に対する市長の想いを伺いたい。また、どのようなプロセスでこの再構築を進めていくのか？

答弁：超高齢社会を見すえた、歩いて暮らせるまちづくりを進め、公共施設の更新には施設維持から機能重視へと見直すことが必要であり、市民が主体となって新たな時代に対応した公共施設を創り上げるチャンスとなる。

3・地域包括ケアシステムについて

介護・医療・住まい・生活支援・介護予防を一括的に提供する地域包括ケアシステムの構築に関わり、次期「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は極めて重要な取組になる。高齢化の進行は区域によって濃淡があり、まちづくりセンター区域別の高齢化率は2013年7月には30%超えが6か所、25%以上が25か所と3年前に比べ倍増している。昨年11月実施の「高齢社会に関する意識調査」では、65歳以上の80%が「今後も今の地域に住み続けたい」と答えており、地域ごとの課題に沿った施策展開が重要となる。

質問：地域包括ケアシステムの実現に向けてどのように取り組むのか、また札幌市では7月現在要支援1及び2の認定者が高齢人口の約7%と全国より2ポイント

ト高い状況だが、予防給付から事業への移行についてどのように考え、進めていくのか？

答弁:高齢者が住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを可能な限り続けることができるよう、地域の資源をつなぎ合わせ、知恵を出しあいながら地域包括ケアを進めていく。札幌市では従来の介護保険事務所を有効に活用し、利用者の状態に応じた柔軟なサービス提供が可能な制度設計を行い、開始時期は2017年(平29)4月までとし、移行準備は丁寧に進める。

その他

- ・財政問題
- ・地球温暖化ビジョンについて
- ・アイヌ施策の取組
- ・映像の力を活かしたまちづくり
- ・生活困窮者自立支援制度の在り方
- ・雪対策について
- ・放置自転車対策など

建設常任委員会市内視察(9月18日)

豊平川雨水貯留管新設工事現場



白石区北郷・平和通地区の「浸水被害の軽減」「合流式下水道の改善」を目的とした下水道施設として、水再生プラザと中継ポンプ場間2km、地下10～15m地下ルートに直径4mの貯留管を築造しており、最大24,000m³を貯留できる。

調査報告(9月18日)

小型家電リサイクル資源化施設視察

昨年10月以降、市民の協力による小型家電リサイクルは、市や大型商業施設の回収ボックス、じゅんかんコンビニステーション、家電量販店などからの収集は順調に進んでおり、石狩市新港南にある(株)マテックの小型家電資源化施設をインターン生、環境局と共に視察した。

札幌市のみならず道内100自治体からの収集量は一日600kg、手作業での解体・分離による徹底的なリサイクルにより、鉄・銅などの有用金属や金・銀・プラチナなどの希少金属の抽出を始め、プラスチックや木くずからのペレットなど、あらゆる素材の適正なリサイクルが可能となっており、「都市鉱山」が活かされている様子を見ることが出来、大変安心できた。



(集められた小型家電)



(破碎されたもの)



(銅を抽出する工程)



(リサイクルを経て出来た金・銀・銅)

自立支援協議会東区地域部会(9月28日)

「障がい者を支える人材を増やそう」



シンポジストからの課題は、ヘルパー不足で必要としている時間帯に入ることができないこと、福祉を目指す人が少なくなっている、職場での人間関係で長続きできない、「寿退社」は福祉職場の男性職員に使われていること、頑張っている人に相応な対応がされていない現状など意見が出された。

妙案としては、働きやすい職場環境が必要で、問題点は皆で共有できること、組織の中で人を財産として大事にする文化・風土が必要であり、福祉・介護のプロとして地域生活を支えている誇りを高める良いイメージを解りやすく伝える。適正な賃金・労働条件により、やりがいやモチベーションを高め、福祉・介護の現場が持続可能となっていくとのまとめになった。

第11回「障がい児」の高校進学を実現する全国交流集会in北海道(9月20日)



障がいのある子が、「希望する地域の同じ学校でもに学ぶ」インクルーシブ教育を求めている。浪人をして、希望の学校を目指す本州の実情には驚き、高校進学が実現できるよう働きかけていく。

《しのだ江里子のつれづれ日記》



(7月4日 大通街宣)



(8月2日元町ふれあい祭)



(8月18日 苗穂カフェリニューアルにて)

皆様のご意見をお寄せください

しのだ江里子事務所

〒065-0024 札幌市東区北24条東16丁目1-7
グローバルビル2F(元町駅1番となり)
Tel:011-784-1086 Fax:011-792-0081
E-mail:eriko1950@beige.plala.or.jp
URL:http://www.shinoda-eriko.com

“しのだ江里子のつれづれ日記”

毎週金曜日 午前10時から30分間放送中
(コミュニティFMさっぽろ村ラジオ 81.3MHz)
(インターネット放送局 ニューゾーンFM)